

前回定例会(平成23年2月2日)以降の行政の動き

平成23年3月2日
新潟県

1 安全協定に基づく状況確認

○平成23年2月24日(月例状況確認) 県、柏崎市、刈羽村

<主な確認内容>

- ・ 6号機定期事業者検査の状況
- ・ 3号機原子炉建屋内の水漏れ現場

2 技術委員会の開催

[新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会]

○平成23年2月10日(現地確認)

鈴木座長をはじめ3名の委員に、起動試験後の5号機の運転状況のほか、点検漏れ問題や使用済制御棒のひび割れへの対応状況、3号機の復旧状況等を確認していただきました。

[設備健全性、耐震安全性に関する小委員会]

○平成23年2月23日(第50回)

<議事概要>

【3号機の耐震安全性評価について】

- ・ 東京電力から、建物・構築物の耐震安全性評価結果について説明があり、解析に適用した条件や耐震強化工事の内容等が議論されました。

【制御棒挿入性の確認試験について】

- ・ 東京電力から、試験の実施状況(途中経過)と今後の試験計画についての説明があり、結果がまとまった段階で、改めて報告することとされました。

3 その他

(1) 5号機起動試験結果に関する技術委員会座長コメント

○平成23年2月7日: 報道発表

柏崎刈羽原子力発電所5号機の起動試験結果について、技術委員会電子会議室で議論していただきましたが、本日、鈴木賢治座長(新潟大学人文社会・教育科学系教授)から、これまでの電子会議室における確認状況等を踏まえ、「今後、5号機が営業運転に移行する上で特段問題とすべき点はない」との評価をいただきましたのでお知らせします。

県としては、東京電力に対して、引き続き、品質保証活動を通じて不適合の管理を徹底するとともに、安全・安心を第一とした慎重な運転・監視を行うよう求めました。

<鈴木賢治座長コメント>

5号機起動試験の実施状況については、「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」において、各出力段階の運転状態や試験中に発生した不適合等が詳細に議論され、技術委員会としては、最終の評価結果を電子会議室で確認してきたところであるが、いずれにおいても安全上の問題を指摘する意見はなかったことから、技術委員会座長として、5号機起動試験の評価結果を以下のとおり総括する。

1 起動試験の結果について

原子炉起動後の点検や試験の結果及び各出力段階における主要パラメータの測定値は、判定基準や地震前データとの比較において、安全上特に問題とすべき点はなく、地震による設備への影響は認められない。

2 起動試験中に発生した不適合について

今回の起動試験では62件の不適合が確認されているが、いずれも通常の保全作業において

確認されるような軽微な事象であり、プラントの安全性に影響を及ぼすものではないと考える。

一方、点検周期を超過した機器が確認された問題について、5号機においても未点検の機器があったものの、いずれもこの間に点検を完了しており、現時点において設備の安全上の観点からは問題はないと考えられる。技術委員会としては、品質管理上、重要な事項であり、今後、他号機を含む最終的な調査結果が出た段階で、原因と対策を改めて確認することとしたい。

以上、5号機については、今後、営業運転に移行する上で特段問題とすべき点はないものとする。

東京電力には、引き続き、品質保証活動を通じて不適合の管理を徹底し、安全・安心を第一とした慎重な運転・監視を行うよう求めたい。

(2) 使用済み制御棒のひび割れに関する原子力安全・保安院の説明

7号機の使用済み制御棒にひび割れが確認された件については、これまで県に対しても、市民団体等から要請書が提出されるなど、安全確保に関する意見が寄せられています。

これらの中に、規制官庁である原子力安全・保安院の指示文書に関するご意見・ご質問も含まれているため、原子力安全・保安院から市民団体の方々に説明をしていただきました。

○日時 平成23年2月26日（土）午後2時から

○場所 柏崎刈羽原子力防災センター

○説明者 原子力安全・保安院

原子力発電検査課及び柏崎刈羽保安検査官事務所の担当者

○相手方 原発からいのちとふるさとを守る県民の会 ほか

(3) 点検周期を超過した機器に関する調査結果（最終報告）について

○平成23年2月28日：報道発表

本日、東京電力から、柏崎刈羽及び福島第1、第2原子力発電所における点検周期を超過している機器に関する調査の最終報告書が提出されました。

本事案については、先般終了した5号機の起動試験中に、不適合事例の一つとして中間報告を受け、県の技術委員会に確認していただきました。

その結果、運転中の号機に関してはいずれも既に点検を完了しており、現時点において設備の安全上の観点からは問題はないと考えられるが、品質管理上重要な事項であり、全号機を含めた最終的な調査結果を踏まえて原因と対策を改めて確認したい、との評価をいただいておりますので、今後、技術委員会最終報告書の内容を確認していただきます。

(4) 高圧ガス保安法に基づく許可申請・届出漏れについて

2月3日、東京電力(株)から、柏崎刈羽原子力発電所にある高圧ガス設備の変更工事に際して、高圧ガス保安法に基づく許可申請・届出の手続き漏れが、3設備で5件あった旨報告がありました。これは、昨年12月に中部電力(株)で同様の手続き漏れがあったことから自主的に調査した結果判明したものです。

県では、速やかな手続き実施と、手続き漏れに至った原因及び再発防止策をまとめて報告するよう指示するとともに、2月7日に現地調査を実施し、設備に保安上の支障がないことを確認しました。

2月28日に、原因と再発防止策についての報告書が提出されましたので、現在内容等を精査しています。また必要な手続き書類は同日までに提出されました。

(5) 原子力防災訓練事後検討会の開催（平成23年2月16日）

昨年11月5日に実施した原子力防災訓練を通して得られた課題や対応方向を整理、検討し、防災体制の充実に図るために、訓練の参加機関による事後検討会を開催しました。（検討状況は別紙のとおり）

「地域の会」訓練視察感想の検討状況（事後検討会）について

平成23年3月2日
新潟県

1 事後検討会では、訓練課題を以下のように分類して対応方向を検討

- | |
|--|
| 1 訓練のあり方に関すること… 訓練想定、シナリオ、日程 等 |
| 2 防災体制の整備に関すること |
| (1) 平常時の備えに関すること… 要員への研修や訓練、住民への知識の普及等 |
| (2) 災害時の対策に関すること |
| (ア) 早期に改善できること… O F C内の配置、避難所での情報提供 等 |
| (イ) 具体的な検討、調整が必要なこと… 住民広報、住民避難 等 |

2 「地域の会」からいただいた主な感想・意見の検討状況

- 参加住民が少ない。周囲の見学者がいない。(訓練のあり方)
→ 次回以降の訓練では、更に多くの住民が参加できるよう、訓練実施日（休日も含め）について検討していくこととした。
- 今回シナリオ訓練であったが、今後はシナリオ非提示訓練も必要。(訓練のあり方)
→ 一部の要員からも物足りなかつたとの声も聞かれ、今後の訓練では、目的に応じ、部分的にブラインド訓練を取り込む等の工夫を行うことを検討することとした。
- 全体に緊張感がなく要員の動きがのんびりムードであった。(訓練のあり方)
→ 訓練参加者がシナリオに基づき、全体として連携しながら活動手順の確認を行うという主目的はある程度達成されたが、シナリオ訓練のため、参加者が自ら考え、動く場面が少なかつたので、今後、シナリオ訓練でも、目的と期待する成果を更に明確にし、参加者に徹底することとした。
- 複合災害ということがわかりにくい。雪害が反映されてない。地震との組み合わせにすべき。想定が甘い。等(訓練のあり方)
→ 次回以降、複合災害を想定する場合には、訓練目的を明確にしたうえで、地元や関係機関と十分調整しながら想定を検討していくこととした。
- ヘリが飛ばなかつたが何かに変更できなかつたのか。(訓練のあり方)
→ シナリオ外の場面についても、関係機関で連携しながら、柔軟かつ臨機応変の対応を検討していくこととした。
- 訓練は重ねて行うことが望ましく、対住民や関係機関間の情報伝達はその都度行う努力をしてほしい。(平常時の備え)
→ 要員の対応能力の向上や活動手順の理解の積み上げは重要で、座学研修や個別訓練も含め、研修や訓練を充実させていくこととした。
- O F C内で災害の進行状況が、タイムリーに視察者に伝わらなかつた。(早期改善)
→ 重要イベントや事故進展情報の館内放送がなかつたり、遅かつたりしたので、要員の情報共有という面からも、今後は、館内放送を適格かつ確実に行うこととした。
- 市の広報や住民避難の状況がよくわからなかつた (O F C内)。(早期改善)
→ 今回、試験的に、避難所等の様子をハンディカメラを利用し、O F C等に映像を伝送し有効性を確認したので、今後、システム整備を検討していくこととした。
- 避難所で、住民への適格な指示、情報提供等がなかつた。(早期改善)
→ 避難所担当職員の誘導が円滑でなく、スクリーニングについての説明要員も配置してなかつた。また、事故情報は掲示のみで放送がなかつたので、これらは、次回以降、工夫、改善することとした。
- 住民広報のあり方（もっと頻繁に、全市に、住民サイドで等）(具体的な検討、調整)
→ 広報の内容や範囲、タイミング、情報の共有、一元化等について、住民の視点に立ちながら、今後、関係機関で、更に具体的に検討していくこととした。